

新興国レポート

インド成長力回復 GDP 6%台へ

堅調な消費と設備投資 景気底入れの兆し

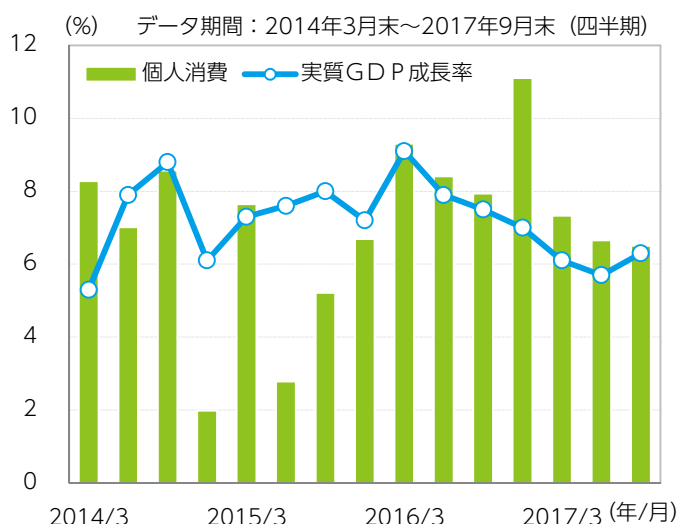
- ▶ インド統計局が発表した2017年7～9月のGDP成長率は前年同期比+6.3%となった。
- ▶ GST導入をめぐる混乱は最悪期を脱し、製造業などを中心に景気回復に向かいつつある。
- ▶ 堅調な消費と設備投資が経済成長をけん引していくことが期待される。

11月30日にインド統計局が発表した2017年7～9月の実質国内総生産（GDP）成長率は、6%前半とみていた市場の予想通り、前年同期比+6.3%となりました。2016年1～3月期から減速が続いていたインド経済は6四半期ぶりに加速し始めたようです。堅調な個人消費がけん引し（図表1）、軟調であった設備投資は5四半期ぶりの高さとなる4.7%増となるなど、回復の兆しが出ています。

2017年7月に、ビジネス環境改善のための、簡素化した全国共通の新たな間接税『財・サービス税（GST）』の導入を控え、在庫処分等の動きが経済を停滞させたことから、2017年4～6月期は直近3年で最低である前年同期比5.7%の成長率を記録し、インドでは景気悪化の懸念が広がっていました。今回の結果では、GST導入をめぐる混乱は最悪期を脱し、製造業などが好調でふたたび景気回復に向かいつつあると見ることができそうです。

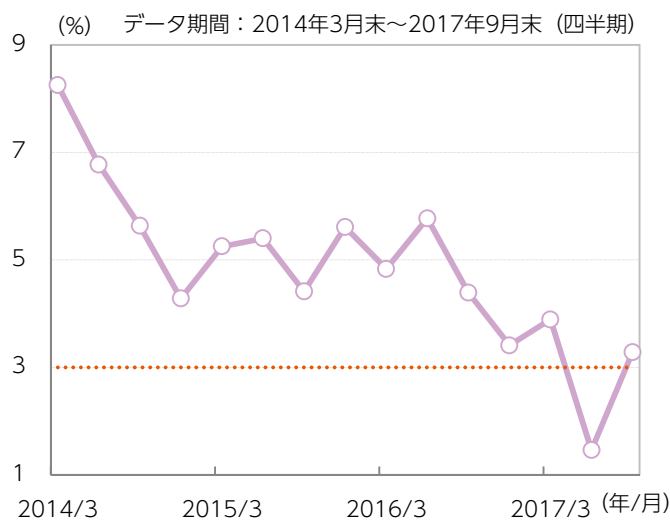
モディ首相とインド準備銀行（RBI）の金融財政政策の協調等が功を奏し、インド最大の課題の1つとされていたインフレ率は、現在3.0%台程度で推移しており（図表2）、都市部などを中心に消費者の購買力が高まっています。また、民間企業の債務削減が進行し、設備投資が本格的に回復するという見方もあり、堅調な消費と設備投資が経済成長をけん引していくことになるとみられます。こうした動きを反映し、米大手格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、2017年11月16日、インド国債の格付けを一段階引き上げました。

図表1：インド景気に底入れの兆しか



※インドの個人消費伸び率と実質GDP成長率の推移（前年同期比）

図表2：インフレ率は低水準で推移



※インドのインフレ率（消費者物価上昇率）（前年同期比）の推移

出所）図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会